

幼児の歌唱指導に関する一考察 II

A practical approach on, “How to teach music to young children” II

畑 中 雅 英

要 約

子どもたちに歌わせる曲については、いろいろな選曲理由がある。目的やねらいがはっきりしていることが望ましいが、季節や行事に関係なく楽しく・明るく表情豊かに歌える教材を選んで欲しい。ただ、どの曲も音程やリズム・曲想を無視して、怒鳴ったり・叫んだりするような喉に負担のかかる大きな声を出すのではなく(元気よくや子どもらしくを違った意味に解釈せずに)、伴奏を表情豊かに弾くことに加え、子どもたちにも意味や内容を説明し、理解させうえで表情豊かに歌って欲しいと思い、指導の基礎についてまとめてみた。

はじめに

近年、保育の音楽指導の現場において、指導方法が単純で、ねらいなどが明確でなく、本来の曲のもつ素晴らしい表現が子どもたちに伝えられていない場面が多いように思う。楽譜から読み取れる指導の為のポイントを理解したうえで、作曲者や作詞家が描いた作品の内容を、子どもたちにも優しく理解することができ、楽しい歌唱表現につながることができるように年少児～年長児を対象に考察してみた。

1. 教材曲の選曲について

まず年間のスケジュールなどに合わせて、歌唱教材の一覧表を作成するほうが良いと思う。【3歳児～5歳児の年齢別などを中心に】それぞれの園において、行事やイベントを行う時期が違うことと、各年齢で共通教材を設けることや、季節に関する教材など、一見して年間の教材が理解でき前もっての教材研究やピアノ伴奏を練習しておくことができる。それぞれの現場では、担任の先生に選曲を任されている場合や、年度やクラスにより練習する曲が様々な場合があるが、クラスの人数や歌う意欲やレベルによって、同じ曲が異年齢児に採用されるなど現場で臨機応変に対応

する場合があっても良い。

2. 楽曲の内容研究について

教材の詳しい内容について理解を深めて欲しい。まず養成校においては、教材研究に関する授業や楽譜そのものについて学ぶ音楽理論的な講義が展開される場合が多い。ピアノを弾く実力や曲に関する理解力も様々である。ただ現場では楽譜を詳しく理解し、表情豊かに子どもたちに指導する為には、時間も掛かりなかなかじっくりと理解を深めることが出来ないのが現状であると思われる。その為にも指導の基本を理解しておく必要が有る。

まず、選択曲が指導する子どもたちのレベルに合っているかどうか。曲のもつイメージやリズムの特徴など、または歌詞のもつ表情などを、実際に子どもたちが想像して頭の中に絵描けるような理解・説明が行えるような知識は持っていて欲しい。これは、幼稚園教育要領や保育所保育指針の「表現」が、他の領域と関連していることを考えて教材研究に取り組んで欲しい。

どの曲に対しても対応できるように、初心者でも分かるポイントを述べたい。

ア) 曲名や1番の歌詞のみで、季節や選曲時期を無視していないか。

例えば、

i) 多くの保育現場で2月の節分に合わせて歌われる場合が多い教材に「赤鬼と青鬼のタンゴ」作詞：加藤直 作曲：福田和禾子がある。NHK のみんなの歌で有名になった曲であるが、鬼というキーワードと節分という行事に合わせて採用されているようであるが…… 歌いだしの歌詞には、♪「秋風の忘れもの 夕焼け ピーヒャララ～」とある。俳句の季語では夕焼けは夏と分けられているが、子どもたちが赤く染まった綺麗な夕暮れを想像するのは、秋空を思い浮かべることが多いだろう。また秋風の忘れものという意味では、晩秋から初冬を表し、歌詞のもつ文章の表現では11月末から12月の初めを思い浮かべる場合が多いと思われる。

季節を無視して教えて良いとは言えないが、行事に出てくる鬼に注目して採用される場合の例だと思われる。

ii) 季節に関係なく採用されている「そうだったらいいのにな」作詞：井出隆夫 作曲：福田和禾子がある。2番の歌詞に♪「そうだったら いいのにな そうだったら いいのにな サンタクロースつかまえて うちだけ毎晩クリスマス～」とある。サンタクロースやクリスマスというキーワードに注目して、12月の教材に限定している場合がまれにみられるが、子どもにとっては楽しいイベント、12月25日だけでなく、毎日続いて欲しいと願う意味が込められているので、限定する必要は無いと思われる。

イ) 作詞者が表現したい詩のもつ意味や、作曲者の意図する音符やリズムの特徴を表情豊かに演奏出来ているだろうか。

i) 春の教材として低年齢児でも歌える「おはながわらった」【譜例 1】作詞：保富康午 作曲：湯山昭がある。楽譜Aの冒頭に表情記号として、①たのしく きれ

【譜例 1】

おはながわらった

●作詞 / 保富康午 ●作曲 / 湯山昭

いに とあるように、この伴奏は、P(強弱記号 小さく) dolce ドルチェ優しく・柔らかく ②右手の16分音符は、春先の花壇やお花畑が、寒かった冬から暖かい春になり、穏やかな日に陽炎のように立ち上るような日差しを受けているようすを、細かいリズムの動きで表していると思われる。ピアノの初心者にとってこのフレーズを、粒を揃えて綺麗に弾くことは非常に難しいと思う。そのために③の部分からを前奏とするような簡易伴奏を用いる場合は、この曲の表情を上手く伝えきれないと思う。出来れば前奏を弾くことで、この曲のもつ優しい表情を味わわせて欲しい。またこの曲のおはなとは、子どもの目線で見て自分より低い位置に春先に咲く、【チューリップ・スマイル・パンジー・デイジー etc.】などの種類であると推測され、決して豪華さを競うような【バラ・ゆり・ぼたん etc.】でも無く、ましてやおもちゃのロックフラワーや絵本・紙芝居などから連想する花が笑う【ひまわり】などでは決してないと理解して欲しい。

ii) 晩秋から冬の教材として、「たきび」【譜例 2】作詞：巽聖歌 作曲：渡辺茂がある。古い作品であるがたくさんの保育現場で今なお歌い継がれている。最近では防火上の理由で、実際にたきびを行うことも非常に少なくなっている。子どもには理解しづらいたくさんの難しい言葉が出てくるが、子どもたちが曲の全体を想像できるように、絵カードや紙芝居風のものなどで視覚的に表現すると、歌う場合に感情を込めやすくなると思う。前奏部分で向こうから垣根のかどを曲がっておしゃべりしながらやってくる様子を表し、たきびが見えた時の喜びや温かさを感じさせるほのぼのとした場面である。④の部分は、伴奏部分がメロディーより1オクターブ高い部分で書かれているように、明らかに前半より音程やリズムが取りづらくなっている。子どものレベルに合わせて、歌う音域と同じ高さを右手でサポートするスタイルで弾くことも考えられる。④の4小節は息つきなしで、初めの「あたろうか」の部分の

【譜例 2】

たきび

●作詞/巽 聖歌 ●作曲/渡辺 茂
♩=96

Handwritten notes on the score:
④ 息つきなしが、音を切る (Breathless, cut the sound)
あ た ろ う か ? あ た ろ う よ (atarouka? atarou yo)

Handwritten notes on the score:
息つきなし (Breathless)
あ た ろ う か ? (atarouka?)

後に8分休符を入れないで、つないで歌ってしまう方法がほとんどであるが、aさん「あたろうか？」bさん「(うん)あたろうよ！」という複数の人による会話のスタイルを上手く表現できるように説明を加えると良い。なお、3番の歌詞の最後は、あるいて く が正しい表記で、歩いてこっちに来るという意味である。指導者が正しく発音しないと、母音だけを聞き取って、あるいて る と間違っ歌う子どもが増えてしまう。かきね、きたかぜ、さざんか、しもやけ、こがらしなど難しい単語については、説明を加える必要がある。

【譜例 3】
山のワルツ

•作詞／香山美子・作曲／湯山 昭・編曲／畑中 雅英

しずかにのびのびと ♩=104くらい

ワルツの速さで ♩=66

たのしくリズムカキ

1-3拍 てきな

やさしく

やさしく

5

iii) 新入園児を迎える時期や[時の記念日]に合わせて教材とされる、「山のワルツ」【譜例 3】作詞：香山美子 作曲：湯山昭がある。冒頭の五度の鋭いリズムは、時計[鳩時計]が鳴っているような雰囲気であるが、初心者にとっては左右の五度の伴奏は難しく、2段目の和音伴奏から弾き始める場合があるが、やはり時を知らせるイメージは強く持って欲しいので、右手はミドー 左手は ラファーのように単音に変えると弾きやすくなる。そのあとの2小節は、朝靄の中から霧が晴れて幼稚園の建物が見えてくるようなシーンを表しているように弾くとよい。8分音符の分散和音が難しい場合は、3小節目右手を4分休符・ミ♭・レ・ド、4小節目左手・シ♭・ファ・ラ♭・シ♭の簡単なリズムに変更すると弾き易い。poco rit. とあるように少しだんだんゆっくりと表情を変化させると良い。4分の3拍子の部分は、付点2分音符=60とあるように、1小節・4分音符3つ分を60で演奏する為には、かなり速いテンポが要求される。1小節を1拍に取るようなアクセントの効いたワルツのリズムを要求される。そうすると、ロン リムリム ロン ラムラム ロン リムリム ロンの部分の8分音符が速くて難しくなるために、メロディーは4分音符3つで弾き、歌詞・言葉だけを細かく歌うと良い。後奏も、♩を中心とした単音⑤に変更すると弾き易くなる。

ウ) 楽曲の速度や表情記号をちゃんと理解しているかどうか？

長調の明るい雰囲気曲も短調の少し暗い雰囲気曲も、また園歌や毎日繰り返して歌われる生活の歌でも、どの曲も同じような速度で歌っている場合をよく耳にする。子どもの為の曲は、冒頭に速度記号が日本語で書いている場合と、イタリア語で書かれている場合がある。特別な速度を除いて、下記の速度記号がよく利用されている。

Largo	ラルゴ	幅広く緩やかに
Adagio	アダージョ	緩やかに
Lento	レント	緩やかに
Andante	アンダンテ	歩くような速さで
Moderato	モデラート	中位の速さで
Allegretto	アレグレット	やや遅く

Allegro	アレグロ	速く
Vivace	ヴィヴァーチェ	活発に
Vivo	ヴィーヴォ	活発に
Presto	プレスト	急速に

参考・引用文献
 ATN社 発行
 幼児の四季 春夏・秋冬 早川史郎編纂
 教育芸術社 発行
 幼児のための音楽教育
 神原雅之 鈴木恵津子 監修・編著

この記号による表記だけではなく、
 メトロノームを使った場合は

M. M. = 88

(M. M. は、読み方・メルツェルメトロノーム

メルツェルとは、メトロノームを開発した人の名前)

1分間に88拍はいるテンポであり

♩ = 92 の時は、1分間に ♩(四分音符)を

92回打つ速さという意味である。

拍子記号により、指定の音符や速度は変化する。

これ以外に、速度の変化する記号として

ritardando <rit. ritard.>

リタルダンド だんだん遅く

rallentando <rall. rallent.>

ラレンタンド だんだん緩やかに

などを覚えておくと良い。

3. まとめ

幼児の音楽指導の現場では、毎月の決められた定番の季節の曲を中心に指導することが多いように思う。できれば、色々なジャンルの曲、長調・短調にこだわりなく、テンポもマーチのように元気よく演奏するものや、ゆっくりしたテンポでしっとりと感情込めて歌うもの、途中で速さの変化するものなど様々な表情を感じとることができるように工夫をして欲しい。どの教材も、作曲家や作詞者が描いた素晴らしい内容を、正しく読み取り、様々な補助教材【生花、ペープサート、絵本、紙芝居、絵カード、図鑑、HP、指人形 etc.】を利用することにより、子どもたちへ効果的な印象を与えることができ、曲への興味・関心を深めることができる。他のクラスの先生方と分担し協力することにより、たくさんの教材研究ができ、お互いの情報交換・意見交換も進んでおこなって欲しい。

